

参観灯台

灯台の内部が常時一般公開されている灯台です。現在全国で16基が参観灯台になっています。参観寄付金200円(小学生以下は無料)で上って眺望を楽しむことができます。

玻璃板



レンズ

レンズは第3等大型フレネル式。高さ1.57m。フランスの物理学者オーギュスタン・ジャン・フレネルが灯台用に設計したレンズで、薄く、表面は階段状の形をしています。フランスのソーター・ハーレー社製で日本で初めて設置されましたが、太平洋戦争の空襲で破壊されてしまいました。



Aランク保存灯台

現存する明治期に建てられた60基以上の灯台を、海上保安庁が歴史的・文化財的価値から検討し、4段階にランク分けしています。Aランク23基、Bランク10基、Cランク16基、Dランク16基。御前埼灯台はAランク保存灯台に指定されています。

光

光度は56万カンデラ(一般的な蝋燭の光度が1カンデラ)。この明るさは19.5海里(約36.1km)先まで届いています。白色の光が10秒に1閃光回っています。

日本の灯台50選

1998年11月1日、海上保安庁と公益社団法人燈光会が「あなたが選ぶ日本の灯台50選」と題して、心に残る日本の灯台を全国から募集しました。応募総数40465通の投票によって選ばれた灯台です。御前埼灯台もその一つです。

塗色・構造

白色、塔形でレンガ造。レンガは地頭方村(現: 牧之原市)で焼かれたと伝えられています。基礎部分や階段には伊豆石が使用されています。灯台下の海岸から人力で運び上げられ、石工は伊豆から来たといいます。

R・H・フランクソン

スコットランド生まれの土木技術者で、明治時代のお雇い外国人の一人。灯台技師として7年半日本に滞在し、28基の灯台を設置しました。このため「灯台の父」といわれます。御前埼灯台は、フランクソンの作品では22番目、レンガ造灯台としては2番目です。

位置：北緯 34 度 35 分 45 秒
東経 138 度 13 分 33 秒
高さ：22.47m
平均海面から灯火までは 54m